

臨床・障害 3 (917~923)

座長 森野礼一・多田建治

- 917 保育所における自閉症児の発達の研究
東大阪市保育研究室 広利吉治
- 918 統合保育所における障害児の相互作用に関する研究(1)
東北大学 本郷一夫
- 919 障害幼児の統合教育について——種々の年齢グループでの試み——
明治鍼灸大学 多田建治
- 920 障害児保育に関する保育者の意識について
大阪府科学教育センター 木村賢一
- 921 障害児保育——保育者の働きかけについて第1報——
柳城女子短期大学 飯田和也
- 922 遊戯療法における玩具の治療的機能(2)——覚醒値の異なる玩具に対する保育園児の反応——
神戸女学院大学 森野礼一
- 923 情緒に問題を持つ脳性マヒ幼児の遊戯療法の試み
東京都精神医学総合研究所 三浦勝雄

917 (広利): 松田(岡山県立短大)から、自閉症児にとり、4~5才児の時期が発達的に重要であるが、保育所入所の平均を2~3才とすると、対人関係よりもその間の指導効果の年数の結果と考えられないかとの質問があり、それに対し、この時期に固執傾向が強化され、集団の刺激による対人関係の改善はなされると答えた。また、三浦(都, 精研)より、保育所でのクラスの大きさについての質問があり、20名前後のクラスに障害児1~2名だと答えた。

918 (本郷): 三浦(都, 精研)から、Turn, Initiationなどの概念は誰によるものかという質問があり、それに対し、様々な研究者の概念を参考に、本郷らが日教心第23回大会発表のものに使用したと答えた。同一人から、OH児について、更に大きな集団へ広げたいとあるが、障害の程度によっては、現状をくり返す方が重要である場合もあるだろうとの意見があった。

919 (多田): 飯田(柳城短大)から、行動観察の中で、言葉はどう処理されているかとの質問があり、それに対し、言葉の出る児童は少なく、別紙資料の中に少し書かれている程度であると答えた。また、蔭山(名古屋大)から、交流の経験の意義についての質問があり、それに対し、普通児の側では偏見の問題、障害児の側では、flexibleな刺激が得られると答えた。その他、辻(甲南女子大)から、子供への質問の仕方についての意見、

木村(大阪, 科教センター)から質問があった。

920 (木村): 飯田(柳城短大)より、言葉の問題で、保育者は実際にどんな悩みをもっているか、また、言葉を伸ばす望ましい働きかけをどう考えているかとの質問があり、それらに対して、保育者の指示がはいらないという悩みが一番多い、また、望ましい働きかけは、手をひっぱったりしてつれていったりするのではなく、言葉を聞かせ、動作を合わせ、言葉に接する機会を多くし、モデルがあることが重要であると答えた。また、浜谷(東大)ら、調査方法についての質問と、保育上の困難点についての、その他の内容、及び、家庭の問題はあがらなかったかという質問があり、それらについて、その他の内容としては、保育者の心構えがあげられ、また、家庭、保護者の問題はあまりあがってこないと答えた。

921 (飯田): 三浦(都, 精研)から、自閉児にとって、eye contactの問題は重要だが、評価項目の中に「見る」というようなものが入っていない理由についての質問があり、それについて、今回のケースは視線が会うので省いたと答えた。

922 (森野他): 浜谷(東大)から、A~Eの玩具の覚醒値と、それから予想される子供の行動の予測を具体的に示すようにという質問に対し、レゴを例にとり、覚醒値得点を示し、それにより、子供の反応は予想できると答えた。また、松田(岡山県立短大)から、本研究結果がどの程度、遊戯療法の対象である、情緒障害などの子供に適用できるのかとの質問に対し、玩具の諸機能を調べることにより、どんな玩具が治療的に望ましいかがわかるのではないかと答えた。また、井出(仏教大)は、治療者とのかかわり合いの中で玩具をとらえていくことが大切ではないかとの意見を、その他、浜谷(東大)、多田(明治鍼灸大)、辻(甲南女子大)、三浦(都, 精研)などから質問があった。

923 (三浦): 岩佐(上越教育大)から、脳性マヒ児の遊戯療法の特徴について質問があり、とくに脳性マヒ児としての特徴のあるかかわりはしていないと答えた。

(多田建治)